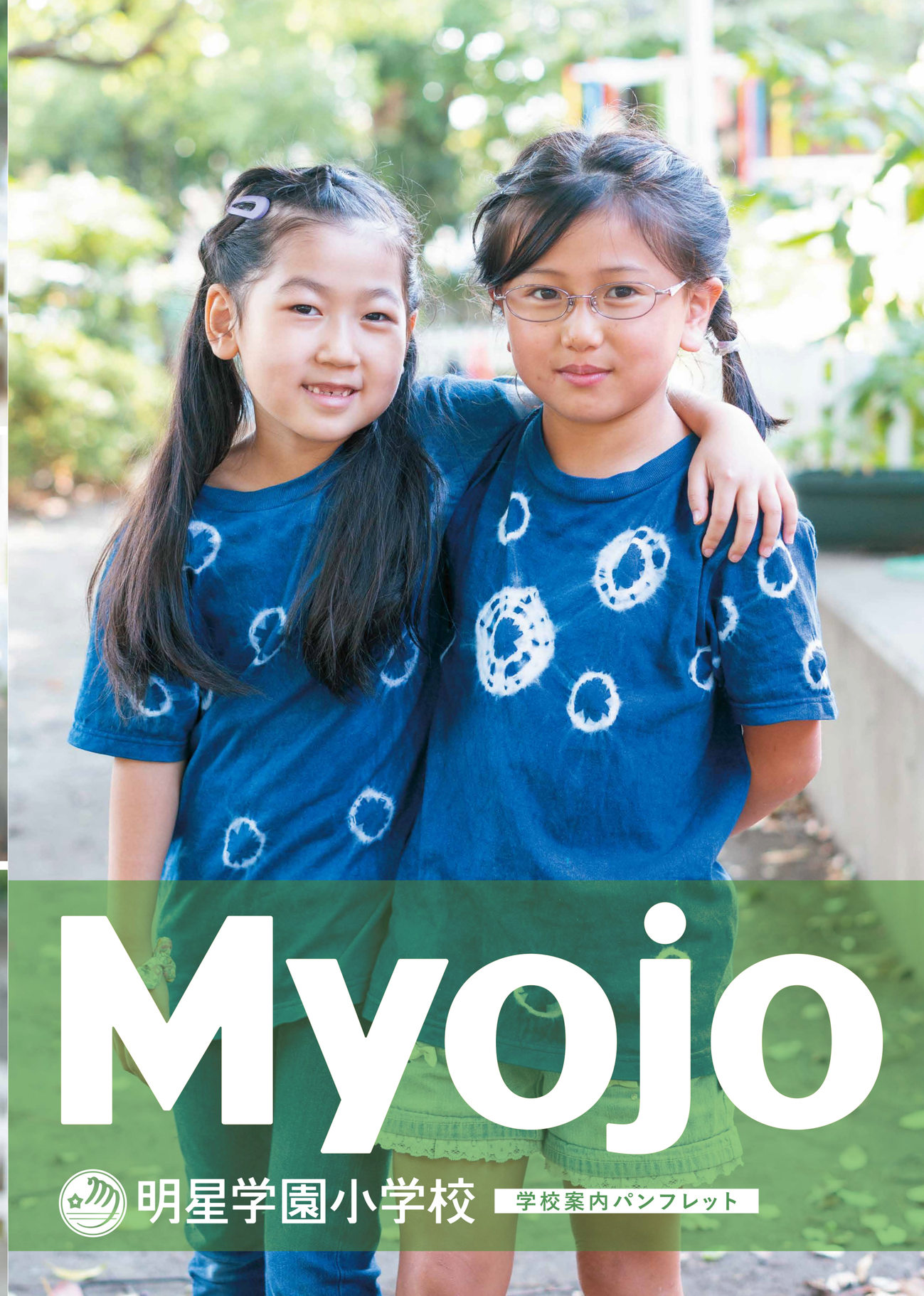


Myojo

明星学園小学校 学校案内パンフレット

220401-30

MYOJO GAKUEN ELEMENTARY SCHOOL

明星学園小学校

一人ひとりの成長のために、
豊かな出会いを用意しています

幸せとは自分らしい生き方をすることです。
自分らしさを形づくるために、体験を重ねる場が学校です。
子どもたちが持っている高い学習意欲や好奇心を
失うことなく知性を磨きます。

At Myojo, we work to support and nurture each and every student we teach.
We strive to create a learning environment rich in knowledge and opportunity.

As teachers, we believe every individual's path to happiness is unique and must be discovered through learning and exploration.
We are passionate about education, encourage enthusiasm and curiosity, and aspire to help our students become the best people they can be.

自ら考える子どもを育てる

Myojo

どの子どもたちも生まれた時から、

知りたがり × やりたがり × 話したがり × つながりたがりです。

このように、もとから備わっている学習意欲や

好奇心、探究心と旺盛な自己成長力を大切にして

“自ら考える子ども”を育てます。

明星学園小学校で身につける4つの力
We aim to develop four core skills and values in all our students:

自然から学ぶ力
A respect and love of nature.

明星学園小学校は豊かな自然に恵まれた環境の中にあります。身近な動植物との出会いは「いのち」を学ぶ機会にもなります。「みいつけた」という活動を通して自然を観察していく視点も養います。

考える力
The ability to think critically and creatively.

「なぜ？」と疑問に思うことを追求します。納得した知識が未知の課題に挑戦させてくれます。心の冒険をするのです。考える力と、学び方を身につけます。何でも言い合うことのできる友だちの存在は大きいのです。

表現する力
The capacity and desire to express oneself
and communicate with others.

人は受信と発信を繰り返しながら新しい自分を発見します。学んだことを自分なりにつくり変えることで作品は生まれます。友だちの表現にも学びます。

社会を創る力
To equip our students with the tools needed
to become productive and valued members of society.

仲間と協力して仕事を成し遂げる自治の力を育てます。授業でも行事でも、話し合うことで自分の意思を相手に分かりやすく伝える練習を積み重ねます。

個性を尊重し その開花をめざす学校

学校は子どもを「見つめる」「見つける」「見守る」
3つの目を持つところ

照井 伸也 Shinya Terui　明星学園小学校 校長 Principal

見つめる（受容する）

明星学園は、子どもたちの心の奥底にある「伸びたい」という気持ちを大切にします。その「伸びたい気持ち」を信頼して、子どもたちが、自己肯定感を持てるようにしていきます。そして、困難に出会うときには、さらによりよい自分を探究できるように、「自分を大事にするっていうことはどういうことかな。」と「かけがえのない自分」を見つめる教育を大事にします。

見守る（自律・自立支援）

明星学園は、子どもたちの「自分で」やりたい気持ちを大切にします。そのやりたい気持ちに寄り添いながら、「自分で考えてごらん」「友だちの意見を聞きながら自分で考えをまとめてごらん」と、自分で考え、表現できるように温かく見守る教育を大事にします。明星学園がめざす教育は、子ども自身が本来持つ「自己教育力」を何よりも信頼しているのです。

見つける（支援）

明星学園は、一人ひとりの子どもたちの良さを発見する教育を大事にします。子どもたちが本来持っている「知りたがり×やりたがり×話したがり×つながりたがり」の知的好奇心や冒険心を大事にしながら「○○さんは、こんなところが素敵だね。」とその良さを発見し、子どもたちの生活世界が広がるように支援していきます。

また、時々にある失敗やトラブルは、子どもたちを成長させる大切な宝物であることに気付かせ、そこからたくさんのことを学べるように支援します。

個性の尊重とその開花の教育

明星学園の教育は、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたち相互の豊かな個性の交わりを支援しながら、共に自分らしさを探究し開花させていくところ（人格を形成していくところ）に大きな特色があります。

それが、子どもたちの「いま・ここ」を大事にし、「あした・そこ」に向かう生きる力を培う本物の教育だと考えているのです。

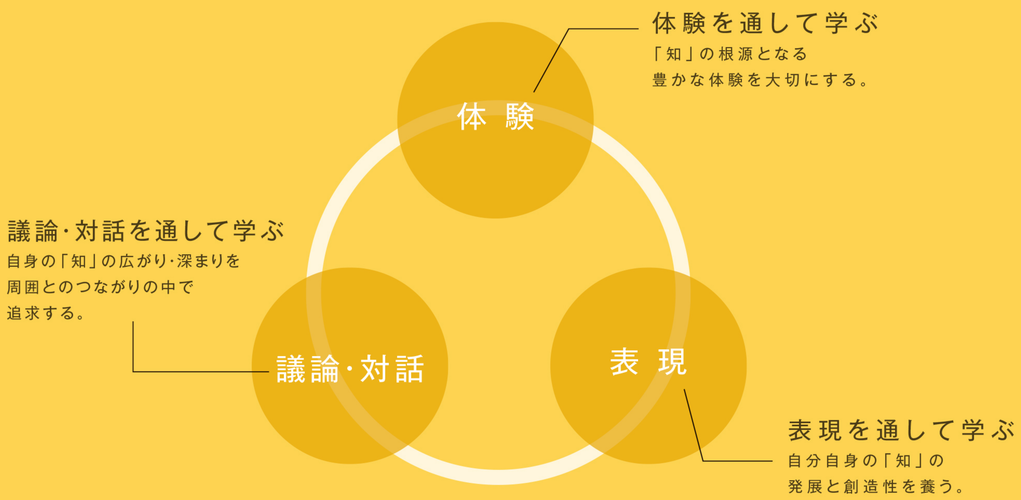
その原動力が、自由に生きることへの希求であり、そのための自主・自立の精神だと考えているのです。

明星学園小学校で育まれた
知性と感性は、
人生を創る基盤となります。

「体験・対話・表現」を通して学ぶ授業づくり

Learning through experience, discussion and expression

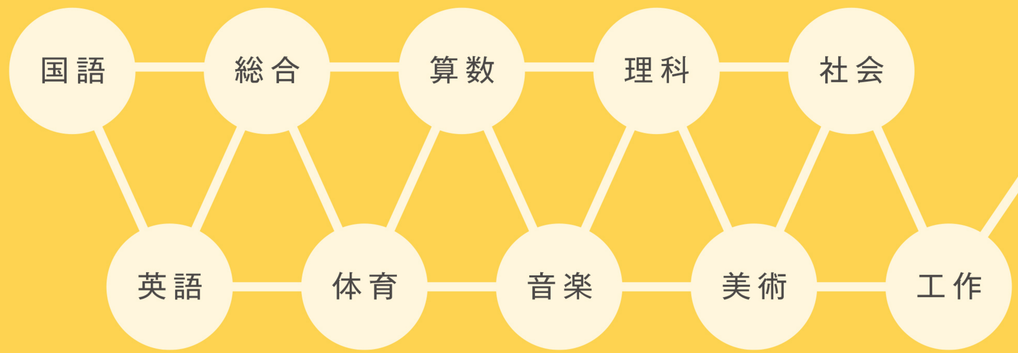
知識が自分の外からやってきて通り抜けていくのではなく、
対象に積極的に働きかけ、
対象から働きかえされながら知識を生み出します。
また、自分の考えや感じたことを発表し、
お互いに「受信と発信」を繰り返すことで学びを広げ深めていきます。



10の教科が響き合う豊かなカリキュラム

Integrated progressive curriculum

明星学園のカリキュラム（教育課程）は、10種類の教科からなっており、
それぞれの教科で関連性を十分検討し、教科内容は形づくられます。
各教科の授業内容が体系的に進行しているので、
6年間を通じ、子どもたちが確かな内容を無理なく学ぶことができます。



明星学園教育　5つの柱

体験
Experience

体験することの背景にある歴史や文化、自然を知る
Bringing history, culture and nature to life

明星学園小学校では“本物に触れる”“実際にやってみる”といった「体験」を大事にしています。実際に見たり聞いたり働きかけたりすることで、子どもたちはものごとを深く理解します。
さまざまな教科で「ものづくり」をしますが、これらを通して、先人の営みを追体験します。そしてその背景にある様々なことを感じとる扉が開かれるのです。それこそが「体験」を通して、よりリアルなイメージを体感することなのです。

2年生「総合」の授業で行なわれた「藍染め」の様子。種をまいて育てたアイの葉をたたいて青い色があることを知ります。そして、Tシャツを藍で染めます。きつく巻いた輪ゴムをはずすと、白い模様があらわれ、植物から色をもらった。自分だけのTシャツができ上がります。

五感を通して、実験を通して

文章に“大きな木”と書いてあっても、その大きさをイメージすることは難しいのかもしれません。また“大変な作業”と言われても「そうなんだ」という一言で片付けてしまうかもしれません。

しかし、実際に木を見上げ、その大きさに心を動かされれば、そのイメージはしっかりと頭の中に刻まれ、実際に同じ作業をしてみれば、その辛さや過酷さも、身をもってわかるはずです。

本に書いてあることや、人の言葉にどれだけリアルなイメージを持つことができるのか、そこに「体験」の必要性があるのです。

教室で行う授業でも「体験」は可能です。理科の授業でアブラナを注意深く観察すれば、花の中心にあるめしべがやがて種になることがわかりますし、その時に感じるアブラナの色や形はもちろんのこと、匂いや触感なども獲得することができるでしょう。

上野動物園での標本観察

羽村見学

矢じりづくり

矢じりづくり

貝塚見学

貝塚見学

6年生理科「動物と食べ物」の勉強で上野動物園へ動物観察に行きました。キリン舎の前で解説員の方から動物観察のポイントを教えてもらっています。

本物を体感する
自ら歴史の目撃者となる

羽村、大島、奈良といったその地に行かなければ臨場感の得られないものもあります。東大寺の大仏がどれだけ大きいのかということを学習してはいるものの、実際に目の前の座っている大仏を見れば、やはり大きいのです。また三原山の火口から未だに水蒸気が上がっているのを見れば、火山の島なのだということは、鮮明に理解できます。このように明星学園ではできるだけ現地に行き、実際に自分の目で見ることを大切にしています。

現地で建造物や出土物にふれ、様々な体験をすると、新たな疑問も生じます。その疑問が日常の授業にフィードバックされ、さらに授業を深めていくことになります。

例えばクラスで縄文土器を作ると、中にはとても苦労して作っている子がいます。しかし縄文時代、みんなが土器を上手に作ることができたのでしょうか。中には不得手な人もいたでしょう。そこで子どもたちは、きっと専門的に土器を作る人がいたのだと予想します。そう予想することが、その後の社会の発達を考える時の助けとなるでしょう。「体験」を通して学ぶ事にはそのような利点もあります。

土器づくり

明星学園教育　5つの柱

対話

Discussion

コミュニケーションを通じ、相互理解を深める

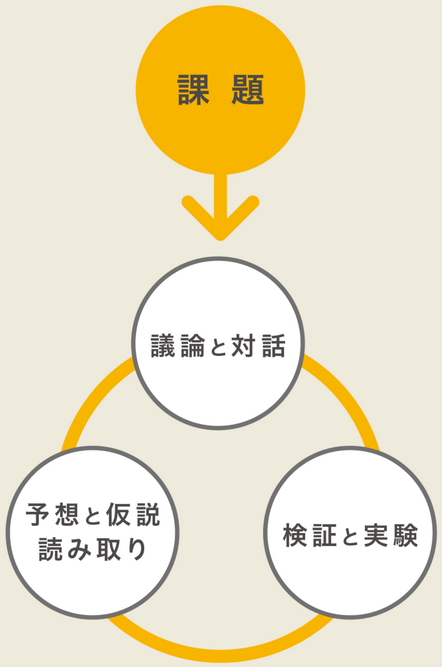
Understanding by communicating

授業は、挙げられた課題に対して自分の予想を持つことから始まります。そして、なぜそのように考えたのかを友だちに伝えます。一つの課題に対して複数の考え方が発表されます。友だちの考え方を聞き合うことにより、それまで自分では持ち得なかった視点を手にすることもできます。この様に議論は、教科により検証の方法は様々ですが、本質へ迫る大切なプロセスです。そして同時に、クラスメイトを人として深く理解し合う語り合いの場でもあるのです。

「答えを覚える」のではなく、「探求する姿勢」を学びます。

どの教科でも系統的に用意された課題に対して子どもたちはまず、予想として自分の考えを持ちます。国語ならば、ある部分についての読み取りになります。それについて、子どもたちは理由をもとにそれぞれの意見を出し合います。こうした議論を通じて、自分の持ち得なかった視点を持ち、より客観的な内容に移行していきます。

こうした議論は正に子どもたち同士の対話であり、お互いを理解し合う場にもなります。最終的には、実験などの客観的な手法により議論は決着し、同時に自己を振り返ることになります。



絵本を使った授業

『スーホの白い馬』モンゴル民話　大塚勇三 再話　赤羽末吉 画　福音館書店

低学年の国語では、本物の絵本を手にして授業を行います。語彙も生活体験も十分ではない子どもたちには文章だけを頼りにするのではなく、絵からもたくさんのことを読み取らせたいからです。

上の絵は「スーホの白い馬」の一場面で、小さな白馬が羊を守ろうとして、狼に立ち向かっているところです。子どもたちはこの絵から分かることを次々に発表します。

「白馬より狼の方が大きくて強そう」

「白馬は後ろ足で立ち上がり、必死に戦っている」

「狼の目は赤く、口は裂け、歯がむき出しで怖い」

絵は雄弁です。文章だけでは伝わらない迫力を感じます。教科書の挿絵などでは不十分で、やはり赤羽末吉氏が情熱をこめて描いたこの絵だからこそです。

ところで、この場面には主人公のスーホが描かれていません。そのことに気付いた子がおり、その理由を考えることで、授業が盛り上がります。

「飛び起きて、かけつけている途中かもしれない」

「羊の囲いの左側にいるので、絵からは外れている」

「スーホは手前にいる。これはスーホの見た様子」

子どもたちの感性は鋭いです。この場面がスーホの視点で描かれていることまで読み取ったのです。

理科の授業

話し合い、予想、実験で自然の法則を検証する

4年生の「温度による体積変化」に続き、5年生では物が固体・液体・気体に変化する現象を扱います。

水が100℃で沸騰して気体になること、水が0℃で凍ることは知っています。でも、その他の物質はどうでしょうか。液体の酸素が存在すると思うでしょうか。授業では色々な物質の三態変化を実際に実験で見せながら、粒子的なこと（分子の状態変化であるということ）をイメージできるように進めていきます。

このような意見交換により、子どもたちは実験を見る視点を獲得していますから、細かな部分を見逃しません。また、結果だけを受け入れるのではなく、どうしてそのような現象が起きるのか、次の課題へつながりを持って考え始めます。

物質の三態変化の授業［5年生理科］

エチルアルコールだけを入れた風船（空気は入っていない）に熱湯をかけると、風船は大きく膨らみます。
よく見ると中が透けて「空間」が出来ているのが分かります。この現象を見て、子どもたちは色々なことを考え、意見を交換し始めます。

教　師　さて、この風船の中ではどのようなことが起きているのだろうか？

児童A　風船の中は、エチルアルコールだけしか入っていないから、エチルアルコールが熱湯に温められて膨張したと思う。

児童B　それにしては、大きすぎると思う。だって、液体の膨張は目に見えないぐらいしか変化しなかったはずだよ。温度計の中がたしかアルコールでしょう。あれは、細いガラス管だから目に見えるようになっていたはず。

児童C　あの（風船の中の）空洞の部分がなにか分からない。

児童D　風船に空気が入ったんじゃない？

教　師　空気は先生が抜いて入れたから、ほとんど入っていないはずだね。

児童E　だったら、何だろう？

児童F　アルコールだと思う。

児童G　え？

児童H　水みたいに風船の中のアルコールが気体になったんだと思う。

児童I　でも100℃になってないよ。

児童J　きっと、アルコールは低い温度で気体になる。だって、注射の時とか、スーとするでしょう。

児童K　たしかに、アルコールは蒸発しやすいかもしれない。その意見に変更する…

明星学園教育　5つの柱

綴る
Writing

自分自身で発見し その感動をことばに変換する
Learning to express your thoughts

“綴る”とは、自らが積極的に働きかけることによって得られた知識や感動がないとできません。
国語以外の教科や教科外活動においても、子どもたちが積極的に働きかけることができ、“綴る”に値する対象を厳選しています。すると子どもたちは自然や社会のできごと、あるいは様々な文章などに対して、感じたことや、わかったことを一つひとつ言葉に変え、ていねいに綴ります。自身の中に対象への心の動きがあるので、魅力的な文章を綴ることができるのです。
このような経験をくり返すことで、子どもたち自身で積極的に対象を見つけ、自分の考えたことを表現する、つまり“綴る”ことができるようになっていきます。

自然から見つける 毎日の小さな驚きを大切に

子どもたちの毎日は小さな発見であふれています。校庭や公園の草むら、家のまわりで、子どもたちは大人が忘れた“驚きの世界”を楽しんでいます。

そんな子どもたちの“驚き”の発表の場である「みいつけた」は、低学年の毎朝の日課です。みつけたことをクラスで発表し、それについて話し合います。

身の回りのさまざまな自然に目を向け、見る・聞く・触れるなどの五感を通じ、頭で考えることは、学習の基本となり、各教科につながります。対象をよく観察し、自ら働きかけることでより深く理解することは、“綴る”の基礎となるのです。

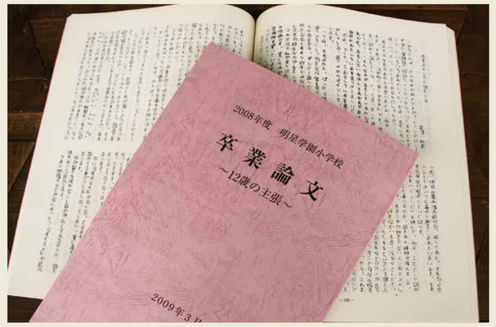
例えば総合の授業で、水の入ったコップの中に角砂糖を静かに入れ、その角砂糖が溶けていく様子をじっくりと観察させますが、その後に綴った文章は、様子をよく捉え、心の動きもよく表現されています。なぜならそれは、溶けていく様子に感動があるからであり、子どもたちはそこで見たことを長い間忘れないでしょう。

1年生の「みいつけた」の様子

対象を見る視点を獲得し、興味の世界を広げる

低学年では自然に関することが主な対象となりますが、それらを綴る際には、視点が大切になります。大きさ・色・形というように、その対象について綴る際、何が大事なのかを考え、対象を切り取る視点が必要になるのです。最初は抜け落ちてしまう視点もありますが、発表や綴ることをくり返すうちに、しっかりと視点が持てるようになります。

中学年になると対象となる世界が広がり、日常生活や社会のできごとなども興味の対象となります。世界が広がることによって、綴る対象も自分らしく広がっていきます。



日常の出来事を文に綴り、自分の言葉を読み手に伝える

卒業時には集大成として、全員が卒業論文「12歳の主張」をまとめます。自分が小学校の6年間で広げていった世界の中で、一番綴りたいと思うものをテーマにします。自分の発想に基づく主張を、自分の考えた言葉で、読み手に伝えられる作品にするのです。ここでは読み手を意識して綴ることも大切になってきます。

壁新聞の制作 社会科

子どもたち一人ひとりが 新聞記者になり、新聞にします

4年生から始まる社会科では、実際に現地に行き、子どもたち一人ひとりが手で触れて、肌に感じながら体験する機会を多く設けています。博物館などの見学も多く、通常の学校では30分程度の見学で終わってしまうところですが、2時間ほどかけてじっくりと取材をすることができます。授業で学んできたことを実際に確かめたり、まだ知らなかったことを関連づけて理解したり、子どもたちの瞳が輝きます。

右の壁新聞は、大島への見学旅行をまとめた大島新聞（上）と、奈良への修学旅行をまとめた奈良新聞（下）。
現地で自分が関心を持って学んだことを、人に伝えるために、一人で一枚の大きな紙にまとめます。他人に分かりやすく伝えるためには、対象に対する深い理解と高度な表現が必要になります。

明星学園教育　5つの柱

ノート

Note-taking

世界に一つしかない自分だけの教科書をつくる

Organizing what you've learned

ノートは、ただ黒板を写し取るためだけの物ではありません。ノートには授業での課題に対して、まず自分の予想と理由を書きます。その後、友達の意見と理由や考察・結果などがまとめられます。
つまり、子どもたちは授業のたびに「ミニレポート」を作成するのです。これが、明星学園小学校のノートです。

算数（4年生）のノート

正十角形の外角は何度だろう？

明星学園の算数の授業では、外角を用いて多角形の性質を解き明かしていく授業を行います。外角の意味や外角の基本的な作図方法を学ぶ過程で「どんな凸多角形でも“外角の和”は360°である」という法則を発見していきます。

このように自身で行う「作図（実験）→仮説→作図（実験）」という流れの中で、自分の考えや疑問点を明確にしていきます。

そして、ある段階からクラス全員で議論が展開され、「凸多角形の外角の和はどんな凸多角形でも360°になる」ことが明らかになります。

そのような流れも「ミニレポート」としてノートにまとめます。自分の考えをまとめ、真実を探る手段を学んでいくのです。

ノートに書かれた意見その①

外角を30°で正十角形を書いてみたら最後の頂点ですごくずれた。
今度は35°で書いてみたら微妙にずれた…。
これは誤差なのかな…？

自分で作図してみたい図形に挑戦しながら、課題を見つけます。

ノートに書かれた意見その②

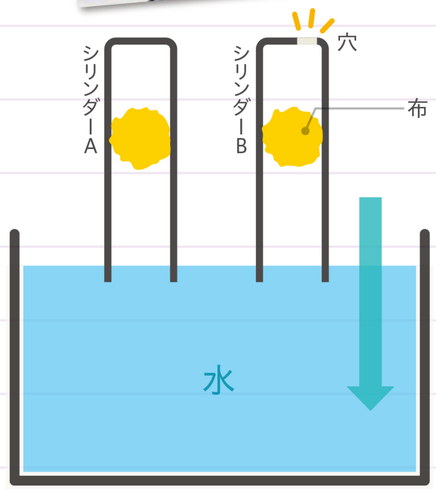
四角形（正方形）の外角の和は、90°×4=360°、五角形の外角の和は72°×5=360°、正六角形の外角の和は60°×6=360°だったので、正十角形の外角は、360°÷10=36°になっているはず！

自分の仮説を立て、その理由、きっかけなどをノートに書き出します。

理科（4年生）のノート

「空気」の授業

図のようにメスシリンダーを水の入った水そうに入れます。メスシリンダーの中につめてある布は水にぬれるでしょうか？



実験装置を見せながら授業の冒頭でその日の課題を提示します。

① 自分の予想と理由

自分の考えとして予想を立て、その理由、きっかけなどを書き出します。

両方ともぬれないと思う。
なぜかというと、この前おふろの中で
バケツをぶれないように
おふろの底の方へおしていったら、
バケツの中がぬれていなかったから。

② みんなの予想と理由

クラスのみんなで意見を出し合い、その考え方について議論します。

両方ぬれる　… 2人
Aだけがぬれる　… 0人
Bだけがぬれる　…28人
↳ Bのシリンダーには穴があいていて、中の空気がにげてしまって、シリンダーの中に水が入ってくるから。
両方ぬれない　… 1人

③ 友達の意見を聞いて

友達の意見を聞いて、初めに自分が考えた予想を再度考え直します。また、同時に実験の視点を手にします。

Bのシリンダーには
穴があいていて、
そこから空気が逃げてしまう。
だから、シリンダーの中の空気が
逃げた部分に水が入りこみ、
中の布はぬれてしまう。

④ 実験の様子と結果

実験をよく見て、見たことを正確に記述します。

最初、Aのシリンダーを
水の入った水そうに入れた。
そして、ぬいたら中の布は、
ぬれていなかった。
次にBのシリンダーを
水の入った水そうに入れたら、
穴のところにはったテープがゆれていた。
ぬいてみたら中の布がぬれていた。

⑤ わかったこと

実験を考察します。なぜ、そのような現象が起きたのかを再度考え直します。

Aのシリンダーは、中に空気が場所を
取っているから水が入って来ることが
できない。Bのシリンダーでは、
穴から空気が出て行ってしまったから、
シリンダーの中の空気が場所を
とれなくなって、その場所に水が入ったから
中の布はぬれた。
空気は、目には見えないけど
ちゃんと体積があることが分かった。

明星学園教育　5つの柱

表現
Expression

表現することの楽しさが、工夫を生み、個性を形づくる
Discovering who you are

私たちはすべての教科において「表現」という視点を持っています。絵画や音楽だけでなく、書き綴る文章、朗読、レポート、身体表現であるマット運動など、学びの中で表現されるすべてがそうです。児童たちがある表現を発表し、子どもたち同士が互いの表現を認めて、そこから学んでいくことで、表現のレベルが上がっていくと考えます。そのためには、表現の機会を多く与えること、その善し悪しが正当に評価されることが重要です。そうすることで、表現することの喜びが自分のものとなり、表現力が飛躍的に伸びるものなのです。

体育

表現の喜びを感じ新たな世界を構築する手助けを

保護者の方から「マット運動が空間表現になるなんて…」という感想をよくいただきますが、明星学園では、体育を表現方法のひとつとして捉えています。以前、鉄棒の一回転ができなかった子どもが、周りの声援によってできるようになり、その後は、さらなる技が次々とできるようになりました。表現する喜びを感じた子どもは、さまざまな場で堂々と発表するようになり、「表現は人の中でこそ成熟する」ことを痛感しました。そういった子どものすばらしい力を引き出し、新たな世界を構築させていくことが教師の役割だと思っています。

音楽

音楽の持つ美しさに触れ共感と自己表現を育みます

上手に歌うことだけを目的にするのではなく、音楽に感動することで、表現への欲求を高める授業を行っています。

子どもたちの持つ純粋な感性は、さまざまな音楽に触れる中で、歌詞やメロディーとリズムなどに反応して、その魅力をすぐに理解します。少し難しい歌であっても、高い音をだしたり、複雑な音程を歌ったときに心地よさや楽しさを覚え、さらに新たな表現に挑戦するようになります。

授業を通じて、みんなと一緒に感動を共有することによって、自分自身の表現がさらに豊かなものになります。

音楽会

子どもたちの感性が響き渡る「音楽会」

毎年開かれる「音楽会」は、音楽の時間に練習してきた合唱を、みんなの前で発表するイベントです。各学年を聴き合ったり、学年合同で合唱することで、響きあう感性を楽しみます。

朗読発表会・学習発表会

仲間とともに創り上げ、物語の躍動感を表現

文学という芸術を深く理解し、創造力を養うために、作品を朗読したり、劇を演じるなどの立体的な表現の場を大切にしています。

国語の授業で読み取った世界を、「朗読発表会」としてクラスや学年ごとに年数回発表します。

三学期に行われる「学習発表会」では、クラスや学年で劇などを上演します。仲間と力を合わせ、自分たちの表現を全校児童や保護者の前で発表することで、表現力豊かな人間に育てます。

明星学園の教科紹介　英語の授業

1年生から週2時間の英語の授業

英語でのコミュニケーション活動を通して自然な英語の感覚を養い、使える英語力を身につけます。

1年生から6年生まで、全学年週2時間英語の授業を行います。日本人の英語教員やネイティブスピーカーの教員と、歌、ストーリータイム、ゲーム的な活動等を通し、楽しく英語でやりとりします。高学年からは読み・書きの活動も始まり、言語の様々な使い方をバランスよく体験します。

海外の姉妹校への短期留学

4,5年生の希望者は、春休みに12日間オーストラリアの姉妹校ウッドエンド小学校に、6年生の希望者は、冬休みに5日間台湾の東海国民学校に短期留学します。姉妹校の家庭に一人ずつホームスティをしながら学校に通い、現地の生活を体験します。

交換留学生との交流を通じて世界を身近に感じる

毎年秋にはオーストラリアや台湾の姉妹校から留学生を受け入れます。1～6年生の家庭からホストファミリーを募り、4～6年生のクラスがホストクラスとして留学生と暮らしを共にし、日本にいながら異文化と触れ合います。

イングリッシュキャンプ

4～6年生の希望者が国内で2泊3日の英語キャンプを楽しみます。

日本にいながら、3日間料理、クラフト、スポーツなどの様々な活動を英語で楽しみます。

明星学園の教科紹介　美術の授業

自由な発想を引き出し豊かな創造力を育む

生活の中での体験、頭の中で想像したこと、目の前にあるものなどを素直に表現することは、子どもたちの心を解き放つことにつながります。また、色・形・空間の捉え方や表現方法を学ぶことで、子どもたちのより豊かな表現を引き出すことができます。美術科のカリキュラムは、「みて描く」「生活を描く」「もよう」「物語の絵」「造形・工作・その他」「鑑賞」の6つの領域に分かれており、各学年の課題に繰り返し組み込まれています。

みて描く

モチーフの特徴や感じたことなどを、色・形・質・量・空間について学びながら、対象を観察して描くもの。モチーフには、季節の野菜や果物など、学年に合ったものを選定しています。

生活を描く

自分の体験したことの記憶をもとに、想像をしながら再構成して絵画にします。子どもたちの周りの日常風景や学校行事などを描きます。

もよう

植物や動物をイメージした形や、幾何学的な形を繰り返して並べて模様にします。合わせて、色彩の学習も行っています。

物語の絵

物語を聞いて、その世界をイメージして描きます。現実の事象に規制されない、子どもたちの想像力あふれる表現が生まれます。

造形・工作・その他

学年に応じた版画表現や彫塑、紙工作などを制作します。カッターナイフや彫刻刀などの道具の扱い方や技法を学ぶとともに、さまざまな素材に触れ、体験的に学習していきます。

鑑賞

課題内容に即した絵画集や自分たちの作品の振り返り鑑賞会などを行います。友達の作品や他学年の作品を鑑賞し、アーティストの考え方に触れ、様々な表現方法を知る機会を持ちます。

明星学園の教科紹介　工作の授業

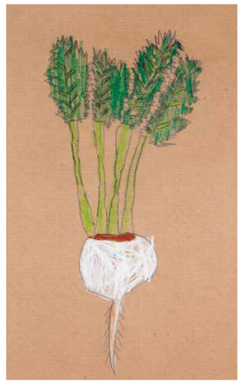
素材と道具の扱い方を学びイメージを形に

5・6年生では、美術と工作の授業を独立させています。工作の授業では数多くの素材を加工する経験を通じて、自然や物事を考える姿勢を子どもたちの中に育てます。

授業で扱う素材は、紙・フェルト・木・石・金属に至るまで様々で、それぞれが違った魅力や個性を持っています。自分のイメージを形にしていくときに、子どもたちは素材と対話しながら、自分自身とも出会う事になります。

魅力的な課題は、子どもたちの積極性を養います。ものづくりの経験を積んでいく中で、頭と手の働きを統合することで豊かな感性を育みます。

子どもたちの作品 美術



1年生 みて描く「カブ」
初めてモチーフを
じっくり見つめて描く課題です。

2年生 みて描く「がくあじさい」
モチーフの印象を下描きせずに
直接絵の具で表現します。

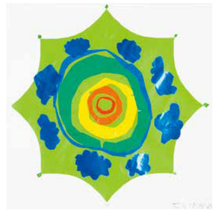
3年生 みて描く「自分の顔」
自分の顔をじっくり見つめて描きます。
6年生の自画像に繋がります。

4年生 みて描く
「友だちのうしろ姿」
うしろ姿は人のバランスを
捉えやすく友だちの特徴が
よく表現できます。

6年生 みて描く「電信柱と空」
初めて空間を描く課題です。

1年生 物語の絵「てぶくろ」
初めての絵の具作品です。クレヨンと
合わせることでその効果も体験します。

2年生 もよう
「マフラーのもよう」（点描）
初めて使う細い筆を使って
点描でマフラーを描きます。

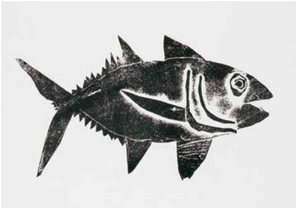


1年生 もよう
「かさのもよう」（貼り絵）
傘の形を活かした模様です。
ハサミの練習としても効果的です。

5年生 みて描く「自分の靴」
愛着のある自分の靴をモチーフに
立体を捉えて描く課題です。

3年生 生活を描く「雨の日の街」
日常の出来事の記憶を人物を入れて表現します。

6年生 卒業制作 6年間の集大成として描く卒業制作作品の一つです。各自のテーマの捉え方が興味深い作品となります。



2年生 紙版画
「水族園の生きもの」
初めての紙版画はまず仕組みを
知ることが大切です。

3年生 紙版画
「井の頭文化園の動物」
2回目の紙版画は背景を考えて制作します。

1年生 共同制作「大きな木」
身体を大きく使って描く作品です。共同制作ならではの
迫力ある作品になります。サイズ:90×200cm

6年生 卒業制作「自画像」（鉛筆画）
6年生の終わりに今の自分を描く鉛筆画
による自画像です。

5年生 木版画「友だち」
彫刻刀を使って木版画の版をつくります。
彫りの効果を理解することが重要となります。

子どもたちの作品 総合（1～3年生）

世界にひとつだけの自作の品。
ものづくりを通じて“もののしくみ”や性質を学びます。

3年生 ナイフづくり

2年生 藍染め

3年生 玉葱染め

1年生 ポシェット（織物）

2年生 和紙づくり

子どもたちの作品 工作（5〜6年生）

6年生　織「フエルトのクッション」
四角いフエルトを短冊に切り、模様を再構成して織り込み、袋状にしたものに綿を入れてクッションをつくります。

6年生　卒業制作　木工作「三角彫りの箱」
卒業に向けて、一枚の板から組継ぎの方法で箱をつくり、表面に彫刻刀で三角彫りの模様（算数の線対称の学習）を施した作品に取り組みます。

5年生　木工作「木彫りのスプーン」
桜の原木を鉈で割り、ノコギリで切り込みを入れ、ノミと木槌で削ってスプーンを彫ります。堅い木材は根気よく磨くときれいな艶がでます。

6年生　金属工作「銅板で器を作る」
薄い銅板を金槌で叩いて鍛造して器をつくります。理科で学習した［金属の性質］を実体験で応用します。

5年生　織編「紐でカゴを編む」
クラフトテープを編んでカゴをつくります。たて糸とよこ糸の具合で線材が少しずつ立体になります。

カリキュラムと教材

発達段階に応じた理解しやすいカリキュラム

子どもたちの発達段階を考慮し、三段階のプロセスを想定しています。

学習内容を筋道立てて吸収できるようにします。単元は「細切れ」にせず、「ひとまとまりの世界」として扱います。大切なところに時間をかけながら、効率よく学習することが可能なカリキュラムになっています。

学ぶ意欲を育む独自の教材

授業で学習すると同時に、本物の自然や文化に触れることで、子どもたちは心を動かされます。その感動は成長する中で自分自身に組み込まれ、学びの軸をつくります。小学校時代の豊かな出会いは、新しい自分の発見となるのです。

3段階のカリキュラム

1,2年生　学ぶ喜び，豊かな感性，読む・書く・計算する力

この時期の子どもたちは、自分自身の直感や体験に多くを頼りながら、一つひとつの物事を具体的事実として認識していきます。したがって、すべての教科において五感を活用しながら学習していく方法が工夫されています。感動を伴う多くの活動や授業の中で、学ぶ喜びが形成されます。

3,4年生　考えをまとめる力，目標を持った学習，主体的行動力，集団の中での責任感

3,4年生になると、継続的な認識が備わり子どもたちの中で「考えをまとめる力」が伸びていきます。目標をもって学習することを通し、確かな達成感が感じられるように授業を進めます。

また、子どもたちは自分のことを客観的にとらえ始めます。話し合いの場を通じてクラスの中で役割意識を持ち、主体的に行動する力をつけていく時期でもあります。

5,6年生　客観的理解力，抽象的思考力，表現・想像力個性の発揮，他者を思いやる気持ち

体系的な認識を獲得するこの時期には、客観的理解力や抽象的認識力を伸ばします。言語や数量、自然や社会について、系統立てた知識を得られる授業を構成しています。

表現力・構想力をつけることも重要です。行事などでは、友だちの気持ちを思いやる大切さを学び、集団の中で個性を発揮できる自信を身につけることを目標にしています。

図書室

優れた文学作品に触れ読み込むことで心豊かに

文学作品の中で、子どもたちはたくさんの人生や物語と出会います。ですから、絵本や物語を丁寧に読むことは大切にしたい活動です。授業の中では、美しい情景描写を味わったり、人物像を掘り下げたりして、皆の力で物語の主題を読み深めていきます。
また週一時間は図書の時間があります。明星学園小学校の図書室には世界中の良書がそろっています。
1〜4年生までは月一回の「ストーリーテリング」を行うことで、耳からもお話の世界を楽しみます。
優れた作品は子どもたちの心を豊かに深く耕してくれます。

明星学園小学校の一年間

4月

5月

入学式

春の遠足

大島見学旅行

伊豆大島の実際の火山を歩き、生きている地球の姿を体感します。現地の自然体験や大島焼きにも挑戦します。

新入生歓迎会

全校児童が集まって、各学年の出し物で新入生を歓迎します。

6月

7月

歌の会

夏休み自由研究作品展

8月

夏季生活

4･5･6年生は自然豊かな千倉町で海水浴や昆虫採集、魚釣り、天体観測などさまざまな体験をします。

9月

修学旅行

1400～1300年ほどを遡る歴史の旅をします。田園風景の中、遺跡をたどる明日香村。歴史的建造物をめぐりながら太古の時代の建造物や仏像から、遥かな時代を想像します。

10月

秋の遠足

11月

運動会

中学校と合同で4色のチームに分かれて開催します。子どもたちそれぞれが主役となってつくりあげます。

12月

鑑賞教室

音楽会

学年ごとに練習した作品を発表します。各学年を聴き合い、響き合う感性を楽しみます。

1月

2月

卒業式

3月

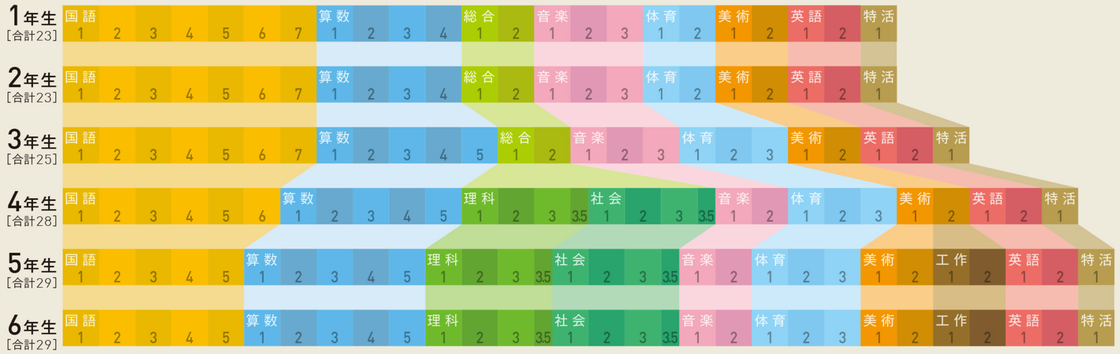
学習発表会

子どもたちの一年間の成長を発表する場です。一人ひとり個性を発揮します。

1年生の1日の生活

教科の編成と週当たりの授業時数

子どもの成長と発達の段階を考え、それぞれの段階に対応した学習活動を編成しています。



◎1～3年生の［総合］は［生活科］の内容を含みます。4年生からの［理科］と［社会］につながります。

クラブ活動について　4年生から

自分の興味に応じて、自由参加のクラブ活動に取り組んでいます。

- ラケットクラブ
- サッカークラブ
- 野球クラブ
- 体操クラブ
- ドリカムクラブ
- 美術・工作クラブ
- 図書クラブ
- ドラマクラブ
- 音楽クラブ
- ダンスクラブ
- 日本の芸能同好会
- ものつくり同好会
- 昆虫同好会
- 剣道同好会

◎活動するクラブは、年度毎に変更の可能性があります。

保護者インタビュー

明星学園を選んだきっかけや、興味深く感じた部分を語っていただきました。

平井さん
2019年度　3年生に在学

「ありのままで大丈夫」真の意味で自由に生きる知恵

我が家の子どもたちは学校生活を通じて「どんな時でも、自分の感じたままを伝えて大丈夫」という自信を学びました。どの教科も小学校の授業とは思えないほど専門的な知識・感覚を教えてもらえる一方で、「あなたが感じたように表現していいのですよ」と肯定してもらっています。
作文や詩、高学年ではレポートもありますが、「みんながやるからやりなさい」ということはありません。表現したいことが見つからない子には、見つかるまで支えてくれる温かさがあります。だからこそできあがった作品は本当に素晴らしい。先生たちの深い知識とゆるぎない愛情がなければできないことだと感じます。
授業は個性に富んでいますが、核になっているものはひとつ。それは「本当の意味で自由に生きる知恵」です。自由とは好き勝手に生きることではありません。様々な経験と知識を身に付けた上で、自分と異なる他者にも理解を示せて初めて手に入るもの。その“核”さえ押さえておけば、あとは伸び伸び育てばいい――日々の授業や行事からはそんなメッセージが伝わります。明星学園という豊かな土壌で育った子どもたちは、やがて成長して大輪の花を咲かすでしょう。4人の娘たちを見るにつけ、そんなふうに思わずにはいられません。

友森さんご夫妻
2019年度　2年生に在学

生きる上で大切な“幹”を育む

保護者として共感するのは「子どもは一人ひとりが異なり、それぞれが個性を持つ人間である」という明星学園の価値観です。その中で子どもたちは尊重すること・されることを学び、自己肯定感を育てます。
息子が、ある小説の読書会を開きたいと先生に相談したところ、真摯に受け止めて実現に動いてくれたことがありました。子どもたちの「やってみたい」に寄り添い、可能性を広げてくれる先生たちの姿勢には感謝しています。
教科書を板書するという通りいっぺんの授業はなく、保護者同士でも「こんな授業を受けたかった」とよく話しています。子どもたちは意見を出し合い、違いを認め合いながら知識を深めます。
学童クラブもユニークで、保護者が中心となり、明星学園らしさを生かして運営されています。
最近、明星学園に興味を持つ親御さんが増えてきたように感じます。人口の減少やグローバル化で不確実性が高まる中、偏差値だけでは測れない価値を教育に求めているのではないでしょうか。
受験のための知識を覚えることも大事ですが、それは人生の枝葉に過ぎません。子どもたちには生きる上で大切な「幹」をこの学校で育んで欲しいと思っています。

飯室さんご夫妻
2019年度　5年生、10年生に在学

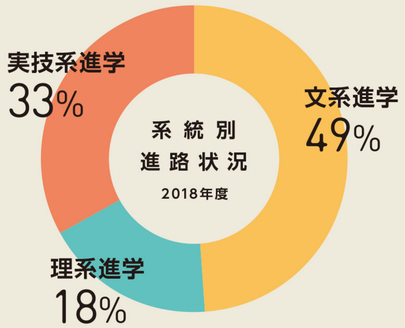
今しか体験できないことを学ぶ毎日が新しい発見の連続

中学校受験が盛んな地域に住んでいるのですが、小学生の早い時期から塾通いをさせることが、果たしてその子のためになるのか疑問でした。感性の豊かな子ども時代しか学べないことはたくさんあるはず。子どもには、今しかできないことをどんどん体験して欲しかった。
実際に入学してみて、まさに期待通りの学校生活を過ごすことができました。子どもは毎日、何か新しい発見をして、生き生きと過ごしています。日記を見ても「よくそんなに書くことがあるね」と驚くくらい。
先生と子ども、保護者の距離が近いのも良いところ。育児で悩んだ時、先生はいつでも「大丈夫」と支えてくださり、共に子育てをしているような安心感を持つことができました。一番感心したのは、先生が子どもの意見を決して否定しないこと。だから子どもたちは自分の考えを伝えることを恐れません。決して一方通行でない、活気あふれる授業風景からもそのことが伝わってきます。
イベントでは驚くほど集中力を発揮するのも魅力のひとつ。音楽会（合唱の会）では「これが小学生の歌なのだろうか」と鳥肌が立ちました。人間性を育てる大切な時期に、豊かな人生を生きるための“学び”ができる――それが明星学園小学校だと感じています。

明星学園の進路指導

明星学園のもつ多様性は、自身の可能性を広げようとする気持ちを育てます。

明星学園高等学校では、多様な選択授業が設けられています。基礎的な学力を身につけながらも、知識偏重に陥らぬ授業の取り組みを心がけることにより、自らの関心や適性に応じた進路の選択を促す指導を行っております。また、生徒の興味関心が多岐に渡っていることもあり、卒業後の進路は多様なものとなっています。多くの生徒が大学進学を中心に、各自が高校での学習を活かした進路決定を行っています。



2018年度合格実績 ※現役生のみ

■国公立大学
埼玉大学
静岡大学
信州大学

■私立大学
亜細亜大学
跡見学園女子大学
桜美林大学
大阪芸術大学
大妻女子大学
学習院大学
神奈川大学
神田外語大学
北里大学
吉備国際大学
京都学園大学
京都造形芸術大学
杏林大学
国立音楽大学
慶應義塾大学
工学院大学
國學院大学
国際医療福祉大学
駒澤大学
駒沢女子大学
埼玉学園大学
相模女子大学
実践女子大学
順天堂大学
城西大学
城西国際大学
上智大学
尚美学園大学
昭和音楽大学
昭和女子大学
女子栄養大学
女子美術大学
白梅学園大学
白百合女子大学
駿河台大学
聖学院大学
成蹊大学
洗足学園音楽大学
創価大学
大正大学
大東文化大学
高千穂大学
拓殖大学
多摩大学
玉川大学
多摩美術大学
千葉商科大学
中央大学
鶴見大学
帝京大学
帝京科学大学
帝京平成大学
デジタルハリウッド大学
東海大学
東京医療学院大学
東京医療保健大学
東京音楽大学
東京家政大学
東京工科大学
東京工芸大学
東京女子体育大学
東京造形大学
東京農業大学
東京理科大学
同志社大学
東洋大学
東洋英和女学院大学
東洋学園大学
二松学舎大学
日本大学
日本社会事業大学
日本獣医生命科学大学
日本女子大学
日本女子体育大学
日本体育大学
日本薬科大学
文化学園大学
文京学院大学
別府大学
法政大学
星薬科大学
武蔵大学
武蔵野音楽大学
武蔵野美術大学
武蔵野大学
明治大学
明治学院大学
明星大学
立教大学
立正大学
立命館アジア太平洋大学
和光大学
早稲田大学

よくある質問

保護者の方からいただいた質問の中から特に多い質問を紹介します。

どの様な子を求めていますか?

想像力、発想力を高め、個性を伸ばすための教育をしています。小さな発見を喜べる子どもらしさをもっていて、ひとつのことに粘り強く取り組むことができる子どもを求めています。

カリキュラムの特色は?

必要な時期に、必要なことを教えられるよう、教師自作の教材などを使って、独自なカリキュラムを組んでいます。もちろん、小学校で必要な内容は全てカバーしています。

学校参観はできますか?

できます。説明会に設定された日以外でも、お電話にて予約を承ります。その他の行事も参観して頂けますが、混雑が予想されますので、事前にお電話にて予約を受け付けています。

英語の授業について

公立学校では英語の授業は5・6年生だけですが、明星学園小学校では1年生から、日本人教師とネイティブ教師が連帯・協力して行う「ティームティーチング」を週2時間実施しています。また、校内で留学生との交流もあります。

入試について

[A入試(第一志望)]、[B入試(一般)]ともにペーパーテストは行っていません。コミュニケーション、論理、運動などの領域に関して、口頭試問形式で行っています。[A入試]で体調を崩すなどした場合、または、受験できなかった場合などに[B入試]も受けることができます。

防災対策について

明星学園小学校、中学校の敷地は三鷹市の避難場所になっています。また、東日本大震災以降、防災備品の充実もはかりました。WEBを利用したシステムも導入し、子どもたちの安否情報を保護者の方へ届けられるようになっています。

スクールバスはありますか?

ありません。
最寄り駅は京王井の頭線 井の頭公園駅です。JR三鷹駅からのバスを利用することも可能です。小学校の目の前のバス停「明星学園前」まで、所要時間は約12分です。

制服はありますか?

ありません。
洋服も子どもたちの個性を反映するもの。
自由な動きやすい服装で来校ください。

給食はありますか?

ありません。
お子様の嗜好性や食の個性に合わせて愛情たっぷりのお弁当をご用意ください。
※学内には、簡単なおにぎりやサンドウィッチを購入できる売店もあります。

卒業生インタビュー

明星学園小学校から中学校・高等学校と進学した生徒の紹介

“見て確かめて考える”教育で楽しみながら自然環境を学ぶ

菊池香帆さん 2015年3月高等学校卒業 都留文科大学 初等教育学科 自然環境科学コース
2009年3月小学校卒業。生物への興味がやがて生態系へ広がり、
高校時代には理科部に所属して、森戸海岸の海洋生物の観察を行った。
また、井の頭公園の“かいぼり隊※”に参加し、現在も活動を続けている。

4年生の時に明星学園へ転校したという経緯を持つ菊池さん。「明星学園での授業は、題材を実際に見て、触れて、みんなで考えて話し合いながら答えを見つけるような形で進められます。友達と話し合ううちに『そうか!』と気づいて、内容についての理解が深まるので、興味のある分野をもっと学びたくなる授業です」。暗記主体になりがちな小学校の理科でも、ほとんどの授業で実験が行われていたそうです。「昆虫同好会では森に行って昆虫採集をしたり、釣り部では魚の解剖をしたり、学校帰りには校内のビオトープに寄って勝手に掃除したりと、自然や科学を楽しく遊びながら学ぶことができました」。

そんな菊池さんが選んだ進路は、初等教育学科。「明星学園は知識を伝えるだけでなく、子どもたちが興味を持って、楽しみながら学びに向かう場でした。そのような“子どもの心”を大切にする教育者になることが小学生のころからの夢でした」と笑顔で語ります。
「推薦入試はプレゼンテーションと小論文、面接でした。授業や井の頭公園での“かいぼり活動”などで興味を持った自然環境をテーマにしました。授業内でも発表の経験は多かったので、緊張せずに自信を持って挑めました」。思い描く将来のビジョンは理科室で“学ぶ楽しさ”を伝える自分。その夢をかなえるべく、これからも勉学に励みたいと意欲に燃えています。

※井の頭かいぼり隊…井の頭池の水質や自然環境をよみがえらせるための“かいぼり”(水質改善を目的として池を排水し、外来生物駆除を行うこと)を支える市民ボランティア。

かけがえのない仲間との出会い 多彩な体験が将来の礎に

和多田万力さん 2015年3月高等学校卒業 東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科
2009年3月小学校卒業。船を持つ祖父の影響で、幼少時より海と船への憧れを持つ。
小学生時代はイラスト部に、高校でも美術部に所属するなど、絵を描くことが趣味。
旅船の航海士を目指す道を本格的に歩き始めた。

和多田さんは、両親の勧めで入学し、12年間、明星学園で過ごしました。「生徒同士の仲が良く、少しでも長く友達と過ごすため、小学4年から卒業するまで、片道一時間半の道のりを徒歩通学していました。特に小学生時代からの同級生は、今でも家族同様の存在だと思っています」。明星学園を勧めてくれた両親に感謝しています。「授業はもちろん、行事では夏期の修学旅行や社会科見学が楽しみで仕方がありませんでした。気の許せる同級生たちと、学校で習った歴史的建造物を実際に見たり、実際に土器や鉄を作ったりと、楽しかった思い出ばかりです」と笑顔で語ります。

理数系である東京海洋大学へ進んだ和多田さん。中学3年生で進路の目標を定め、明星学園の先生に教えを乞いつつ受験勉強に励みました。「本格的に数学に取り組んだ際、小学校時代の算数で、数式の意味や概念を目で見て分かるように教えてもらっていたため、なぜこの公式が導き出されるのか、明確なイメージとして頭の中に浮かぶことに気づきました。概念が分かるから、公式を知らなくても問題が解けるんです。予備校で出会った友人たちは公式を丸暗記していたので、この感覚が伝わらなくて驚きました」。今では数学の楽しさに目覚め、毎日難問に取り組んでいるそうです。

明星学園の沿革

創立時の生徒（小学1～3年生）と創立者たち

1960年代の高校校舎

1930年代の女学部　中央に座っているのは赤井園長

武蔵野の自然の中で、自主・自立を育み
子どもたちを主体的な学びへと向かわせる教育の場

明星学園は1924年（大正13年）に創立されました。赤井米吉、照井猪一郎、照井げん、山本徳行の4人の創立同人（教員）により小学校が開設されました。建学の教育理念は、『個性尊重・自主自立・自由平等』です。この教育理念の下で、明星学園独自の校風を築き上げ、90年余の歴史を刻み、今日に至っています。

大正デモクラシー運動高揚のなかで生まれた自由教育運動は、当時の管理主義的画一教育から子どもたちを解放し、子どもの個性や自主・自立を尊重する教育運動でした。

その代表的教育者の一人、成城小学校の沢柳政太郎に強い影響を受けた創立同人4人の、“武蔵野の自然のなかに子どもたちを解放し、自分達の理想を高く掲げた学校を開設したい”という熱き思いにより、明星学園は誕生したのです。したがって、建学の教育理念は、大正自由教育運動を色濃く反映したものであり、その教育が子どもたちの解放をめざし、子どもを一個の人格として教育する人間教育として創立以来息づいている所以でもあるのです。

小学校開設のとき入学した最上級生の卒業にあわせて、1928年（昭和3年）に中学部（旧制中学校）と女学部（旧制高等女学校）が開設されました。また、中学部・女学部開設のため、上田八一郎が部長（校長）として参加しています。この中学部・女学部が戦後の学制改革で男女共学の中学校と高等学校に改組され、今日あるような学園の体制になりました。

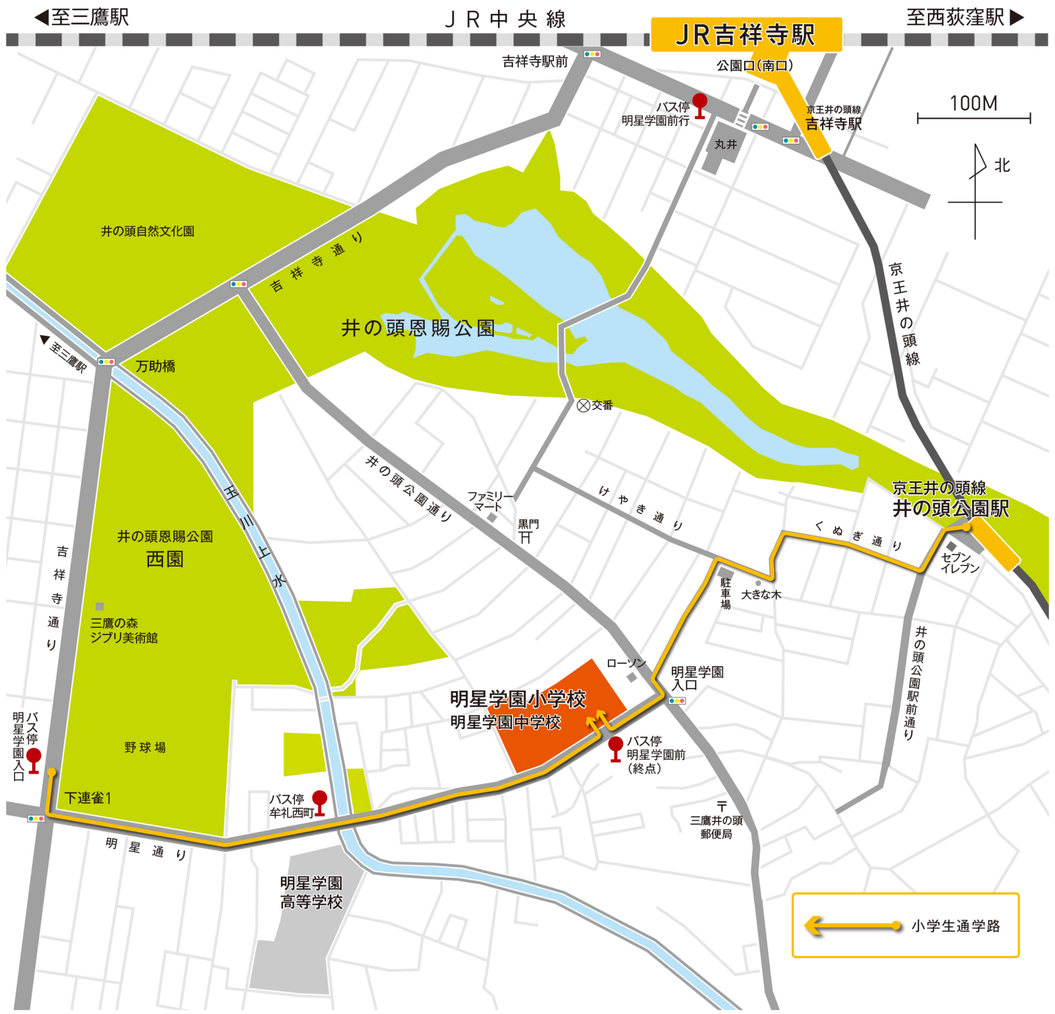
戦中・戦後と幾多の世相の変化のなかで、明星教育も紆余曲折はありますが、その基本理念や初代校長の信条は今日まで一貫して流れ続けています。

明星学園は、小学校、中学・高等学校が設置されていて、12年間の一貫教育の体制をとっています。12年一貫の教育目標は「将来に夢と希望を持ち、主体的、創造的に力強く生きる人間の育成」です。個々の個性を尊重し、探究的な学びをとおして、自己を確立していくことを目指しています。

小学校で培った「知的好奇心・探究心・表現意欲」は中学・高等学校では「教養・自己表現・社会性」へと昇華されます。高等学校では選択授業を多く用意していて、自分の進路を考えながら履修することができます。

生徒主体の明星祭、音楽祭、豊かな国際交流イベント、職業体験などがあり、クラブ活動も盛んで、教科以外の活動も充実しています。一人ひとりに活躍の場が保障されています。探究的な学びは人間形成に欠かすことのできない体験です。

明星学園小学校へのアクセスマップ



徒　歩

JR吉祥寺駅から　約15分

京王井の頭線
井の頭公園駅から　約10分

バ　ス

JR吉祥寺駅 公園口、丸井前4番のバス停から「明星学園前」行（小田急バス）に乗車。
終点「明星学園前」下車。
約15～30分間隔で運行。
約10分

JR三鷹駅 南口駅前から「三鷹の森ジブリ美術館経由 明星学園」行に乗車。
終点「明星学園前」下車。
約30分間隔の運行。
約10分

深大寺・調布・武蔵境 方面より「吉祥寺」行バスにて、「明星学園入口」下車。
明星通りを徒歩。
約10分

明星学園小学校
〒181-0001 東京都三鷹市井の頭 5-7-7
TEL 0422-43-2197　FAX 0422-47-6905　ウェブサイト https://www.myojogakuen.ed.jp/
MYOJO GAKUEN ELEMENTARY SCHOOL
5-7-7 Inokashira Mitaka-shi Tokyo Japan 181-0001　Telephone 0422-43-2197　Facsimile 0422-47-6905